

C17c 木曾観測所が行うパブリックアウトリーチ II-理科特別授業

西浦慎悟、中田好一、田中培生、青木勉、征矢野隆夫、樽沢賢一、宮田隆志、三戸洋之(東京大学木曾観測所)、畑英利(長野県三岳村立三岳中学)

東京大学木曾観測所では1995年度より、近隣地域社会への教育普及活動として「理科特別授業」を実施している。これは観測所の所員が近隣町村の小中高等学校を訪れ、1-2時間で最新の天文学情報や観測所の研究成果を解説するというものである。

理科特別授業の発案は畑英利氏によるものであり、開始当時は年間6校だった授業希望校も1998年度以降は常に10校を越えるものになっている。ちなみに2002年度の希望校は12校である。これらは地元教育機関の、木曾観測所に対する、天文学情報発信基地としての期待の大きさを反映していると言える。また理科特別授業の希望申込みは観望会(本年会「木曾観測所が行うパブリックアウトリーチ III-特別公開と観望会」参照)申込みと同時に進行されており、学校担当者によっては理科特別授業と観望会のセットを以てより有機的な天文学教育を行なおうとする動きもある。

特別授業実施後は、学校担当者が生徒の観想文をフィードバックしてくれるケースが多く、それからは高度に専門化した最新の天文学を如何に明確に伝えるか、という方法論が今後の問題点であることが伺われる。またポスターでは教育用CD-ROM「KISO Schmidt 天体写真集」についても紹介する。